	Inter-departmental Exchange	部局間交流協定校	Country	連絡調整責任者	交流開始年	ページ
1	National Taiwan University of Science and Technology	国立台湾科技大学	Taiwan	山田協太	2008	8
2	National Taiwan University of Arts	国立台湾芸術大学	Taiwan	太田圭	2005	4 | 5
3	China Academy of Art	中国美術学院	China	菅野智明	2008	6 | 7
4	China Central Academy of Fine Arts	中央美術学院	China	小山慎一	2018	9
5	Ho Chi Minh City University of Fine Arts	ホーチミン市美術大学	Vietnam	中村伸夫	2014	10
6	The Florence Academy of Art	フィレンツェ国立美術学院	Italy	星美加	2016	11 | 12 | 13
7	Eindhoven University of Technology	アイントホーフェン工科大学	The Netherlands	李昇姫	2008	14 | 15
8	Delft University of Technology	デルフト工科大学	The Netherlands	李昇姫	2001	16 | 17
9	Royal Swedish Academy of Arts	スウェーデン王立美術大学	Sweden	田島直樹	2007	18 | 19
10	University of Barcelona	バルセロナ大学	Spain	山本早里	2011	20 | 21
11	Academy of Fine Arts, University of The Arts Helsinki	ヘルシンキ芸術大学美術アカデミー	Finland	田島直樹	2016	22 | 23
12	Strate School of Design	ストラートデザイン大学	France	小山慎一	2017	24
13	Ecole Nationale Superieure d'Arts et Metiers (Paristech)	国立工業工芸大学(パリ工科大学)	France	山中敏正	2014	25

	Inter-University Exchange	大学間交流協定校	Country	連絡調整責任者	交流開始年	ページ
14	Tsinghua University	清華大学	China	上北恭史	2002	—
15	Korea Advanced Institute of Science and Technology	韓国科学技術院	Korea	李昇姫	2010	26
16	Hongik University	弘益大学校	Korea	花里俊廣	2009	27
17	National Cheng Kung University	国立成功大学	Taiwan	山川陽祐(生命環境系)	2014	—
18	National Taiwan University	国立台湾大学	Taiwan	大庭良介(医学医療系)	2007	—
19	University of Tasmania	タスマニア大学	Australia	吉田正人	2015	28
20	Deakin University	ディーキン大学	Australia	吉田正人	2015	29
21	Utah State University	ユタ州立大学	United States	原忠信	2016	30 | 31
22	University of Guadalajara	グアダラハラ大学	Mexico	山中敏正	2017	—
23	Samarkand State Institute of Foreign Languages	サマルカンド国立外国語大学	Uzbekistan	吉田正人	2006	—
24	Politecnico di Milano	ミラノ工科大学	Italy	李昇姫	2013	34 | 35
25	University Bordeaux Montaigne	ボルドー・モンテーニュ大学	France	山中敏正	2016	—
26	Brandenburg University of Technology Cottbus-Senftenberg	ブランデンブルク工科大学コットブス・ゼンフテンベルク校	Germany	上北恭史	2007	32 | 33

トランスボーダー大学で学ぶ地球人として

社会がグローバル化するなかで、世界で活躍する、未来の地球社会の創造にむけて活躍する人材を育成することが求められています。特に筑波大学は、世界中にキャンパスを開き、世界から学生教職員を受入れ、そして世界中に学生や教職員を送り出して、地球人としての体験を学んで欲しいと考え「トランスボーダー大学となる」ことに取り組むのです。この計画の中には、海外の大学と研究室の交換を行ったり、共同学位を設置したりする Campus in Campus 構想、キャンパスを越えて大学の授業を受講できる科目ジュークボックス制度など、多くの「トランスボーダー」な取り組みが開始されています。そして、学生には、どんどん世界の大学に学びに行ってほしいと考え、海外インターンシップ、交換留学や武者修行型留学など、様々なかたちでの海外体験を奨励する制度が作られます。
芸術では、すでに14校の部局間交流協定校(芸術や人間総合科学研究科と相手先との交流)があり、大学全体で結んでいる協定のなかでも8校とは特に積極的な交流を行っています。協定を使った留学は学費が不徴収になるなどのメリットもあり、特に積極的に活用してほしいと思っています。もちろん、留学を実現するためには、TOEFL などの英語検定試験のスコア、また、成績(GPA)のスコアなども求められます。しかし、何事も始めなければ始まりません。この冊子を手にしたその日から、準備を始めることをお薦めします。

go Global, have an Experience, be a Genius

留学までの流れ

1. **情報収集及び事前準備**
   留学計画の設定、希望大学に関する情報収集、ポートフォーリオの作成、TOEFL受験対策等

2. **留学を希望する大学の連絡調整責任者(教員)へ事前相談**
   留学の意図や計画をプレゼン、ポートフォーリオ持参のこと

3. **「短期派遣留学生の募集」選考時期:8月または1月 応募書類の配付・受理**
   担当: 体育芸術エリア支援室エリアコモンズ担当

4. **面接試験(申請翌月)**

5. **合格発表**

6. **奨学金への応募等**

7. **留学準備**
   留学先との打ち合わせ、ビザ取得など

8. **いよいよ出発!**

各部局間交流協定校の応募の目安

大学名	学内応募書類提出時期の目安	毎年度入学月
国立台湾科技大学	Sem1: 3月末	Sem1: 9月
	Sem2: 9月末	Sem2: 2月
国立台湾芸術大学	3月末	9月
中国美術学院	3月末	9月
ホーチミン市美術大学	3月末	9月
ノーザンブリア大学	Sem1: 3月末	Sem1: 9月
	Sem2: 8月末	Sem2: 1月
アイントホーフェン工科大学	前年9月末	翌年9月
デルフト工科大学	前年9月末	翌年9月
スウェーデン王立美術大学	1月末	9月
バルセロナ大学	＊1 3月末	9月(半年/1年)
	＊2 8月末	2月(半年)
ブランデンブルク工科大学コットブス・ゼンフテンベルク校	＊3 Sem1: 5月末	Sem1: 10月
	＊4 Sem2: 11月末	Sem2: 4月
ヘルシンキ芸術大学	＊5 1月末	9月
ストラートデザイン大学	Sem1: 3月末	Sem1: 9月
	Sem2: 9月末	Sem2: 1月
パリ工科大学	2月末	9月

＊1 オンライン締切6月15日　＊2 オンライン締切11月15日
＊3 オンライン締切7月15日　＊4 オンライン締切1月15日
＊5 学内審査に加え、先方による書類審査あり
※上記以外の協定校への応募については、各校の連絡調整責任者に問い合わせてください。

奨学金はいろいろあります

筑波大学国際交流奨学金制度 https://www.tsukuba.ac.jp/students/go-abroad/scholarship.html

奨学財団名	奨学金名	条件	月額	受給期間	募集期間
筑波大学	海外留学支援事業 はばたけ！ 筑大生 （国際交流協定校交換留学支援プログラム）	前年度の成績評価係数＊が2.30以上であること 等	8万円	1年以内	12月～2月＊＊
日本学生支援機構	官民協働海外留学支援制度～トビタテ留学JAPAN！ 日本代表プログラム	事前･事後研修参加 所定の家計基準 等	12万～16万円、渡航費等	28日～1年以内	12月～2月 7月～10月＊＊

＊取得した単位にA＋、Aは3、Bは2、Cは1を乗じて、総取得単位数で割ったもの。

＊＊場合によって年度内に複数回募集があります。上記のサイトで逐次確認してください。

このほか、自然保護寄附講座を対象とした奨学金プログラムがあります。条件等はつくばスカラシップに準じます。
詳しくは世界遺産専攻事務室内の自然保護寄附講座事務局にお問い合わせください。

スチューデント･コモンズ

スチューデント･コモンズは日本人学生も外国人留学生も一緒に学修し交流する場です。コモンズコーディネータやピアチューターが留学や履修相談に応じて下さいます。留学に興味がある方は、ぜひ一度訪ねてみて下さい。

TOEFL対策

- TOEFL対応の授業科目
  （学群:「TOEFL Practice」、大学院共通科目:「Special Preparation for TOEFL iBT」等の開設
- TOEFL対策講座「TOEFL セミナー」のための説明会
- 海外留学のための英語（TOEFL対策）スペシャルレッスン Speaking / Writing講座』説明会
  （※グローバル･コモンズのウェブサイト中“TOEFL”タグのページ参照）
- 大学での TOEFL ITPテスト受験のチャンスもあります（6月頃）

国立台湾藝術大学
National Taiwan University of Arts
URL: http://www.ntua.edu.tw
住所: 新北市板橋区大觀路一段59號
規模: 5学部 学生数 約5,000名
専任教員 約160名 兼任教員 約770名
交流実績: 派遣5、受入20
連絡調整責任者: 太田圭

キャンパス内外で濃密な芸術体験ができる名門大学

1955（昭和30）年、国立芸術学校として開校した高い教育・研究レベルを持つ芸術大学。台湾の芸術界を代表する著名な芸術家を多数輩出している。国際的には映画監督の侯孝賢（ホウ・シャオシェン）と李安（アン・リー）の母校として知られている。日本の学部に該当する「学院」には、美術、設計、伝播、表演芸術、人文の5学院があり、それぞれに博士、修士、学部、2年制の課程がある。

学科に該当する「学士班」は、美術学院には美術、書画芸術、彫塑、保存修復の4学系、設計学院には視覚伝達設計、工芸設計、マルチメディア・アニメーションの3学系、伝播学院には、グラフィックコミュニケーション、ラジオ・テレビ、映画の3学系、表演芸術学院には、ドラマ、音楽、中国音楽、ダンスの4学系、計14学系がある。博士前期課程に該当する「碩士班」では21、博士後期課程に該当する「博士班」は4つの講座がある。その他、週に数回通学する社会人向けのプログラムもある。

國立臺灣藝術大學書畫藝術學系 留学体験談

中国書法を学ぶ中で、中華文化圏へ留学したいという思いが強くなりました。古く中国では、書画と篆刻は文人の教養と考えられていました。それらが見事に調和した作品が現代に多く伝わっています。私は自身の専門分野である書法に加えて、水墨画や篆刻の技術を身につけたいと考え留学を決めました。

国立台湾芸術大学で1年間学びました。ここでは、書画及び篆刻が1つの専攻で学ばれています。交換留学生は自身の興味に合わせて、自由に授業を選択することができます。書法については発展的なものを選び、水墨画と篆刻は基礎的ものを履修しました。授業形式は、提出した課題について先生からコメントをもらう個別指導が中心です。その他にも先生が作品を作る様子を実際に見ることができ、言葉では表現できない筆遣いや色使いを学ぶことができます。年に2回、学習成果を発表する機会として、作品コンクールが催されます。交換留学生も参加可能なので私も出品しました。台湾の同世代の作品を鑑賞する貴重な機会となりました。留学生活を充実したものとするためには、中国語の学習が不可欠です。私は、クラスメイトの中で日本語に興味がある人を探して、言語交換をすることで中国語の習得に努めました。台湾では、日本の言葉や文化を勉強したい人が多くいます。言語交換は言語の学習に留まらず、文化交流や交友関係を広げることに役立ちました。

生活は大学の宿舎でしていました。宿舎は学校の地内にあり、中国からの留学生との4人部屋でした。素晴らしいルームメイトに恵まれて、生活をサポートしてもらったり、放課後や休日には一緒に出掛けたりと、とても良い関係を築くことができました。現在でも連絡を取り合い、交友を続けています。

学校は、都心から電車で15分ほどの郊外にあります。都会の忙しさからは程よく離れ、旅行では味わえない台湾生活を体験することができます。外国での生活を有意義にするためには、日本との違いを受け入れ楽しむことが大切だと感じました。芸術大学で過ごした1年間はかけがえのないものです。書芸術に対する考え方や作品の幅は、留学の前後で大きく変わりました。特に台湾の同世代の作品からは、強い刺激を受けました。日本と台湾の双方に先生やクラスメイトがいることはとても幸せなことです。この経験を糧に今後も書芸術に向き合っていきます。

美術専攻（書コース） 鈴木吉貴

留学期間: 2017.9 ― 2018.7（学群4年次）

中国美術学院
China Academy of Art

中国美術学院

China Academy of Art

URL: http://www.caa.edu.cn/index.html

住所: 浙江省杭州市南山路218号

規模: 造形芸術学院(美術学部)、設計芸術学院
(デザイン学部)など11学院(学部)
学部生6500人、大学院生800人

交流実績: 派遣2、受入1

連絡調整責任者: 菅野智明

部局間交流協定校

中国の芸術界を代表する著名な人材を多数輩出

中国でもっとも永い伝統を誇る美術総合大学であり、研究・教育のレベルもきわめて高く、北京の中央美術学院と双璧をなす。「継承」「融合」「創新」の三理念をかかげ、美術・デザインを中心とする芸術の諸分野で多くの実績を挙げており、中国の芸術界を代表する著名な人材を多数輩出している。

カリキュラムは、数週間にわたる集中講義を重ねる方式を採用している。時間配分に弾力性が求められる演習や実技においては、特に効果をあげている。また、附属の設備・機構も充実し、独自に美術館・出版社を擁している。これらは学内の成果の公表に利用されるのみならず、中国における斯界第一級の成果を披瀝する受け皿としても機能している。

中国美術学院での留学について

授業体系は日本の大学とは大きく異なります。日本の大学が、一時限、二時限…と細かく分け、それらが半期もしくは通年続くのに対し、中国では、一日の授業が午前、午後にしか分かれておらず、更に同一の授業を二週間から一ヶ月ほど集中的に行います。つまり単一のテーマの授業を毎日実施し、それが終わると別のテーマに移るという形式です。テーマが一つであるため、他のことにとらわれずに集中でき、実技などは反復練習することでしっかり身につけることができます。私は書を専攻していますが、日本では授業のなかった「中国美術史」や「山水画」、「篆刻」などといった科目も開講されており、書だけでなく中国画や篆刻も幅広く学べるカリキュラムになっています。

授業は基本的に午前中のみで、午後は授業の課題を行うほかは自由に時間を使えます。私は博士論文の執筆中でしたので、論文に関連する文献を読み、よくわからない箇所や疑問に思った点を授業の際に先生へ聞いていました。先生方は質問に丁寧に教えてくださるだけでなく、独自の解釈を提示してくださったり、参考となる本やWebサイトも紹介してくださったので、大変、勉強になりました。

杭州は風光明媚な観光名所として知られますが、近年、開発の著しい文化の中心地でもあるため、非常に多くの博物館や美術館が点在します。学内にも三階建ての立派な美術館があり、教員や学生の個展やグループ展を開催したり、大学関係者の収蔵品を展示したりと様々な展示が頻繁に開催され、美術にふれる機会は日本よりも多かったように思います。また中国の博物館は、現在ほとんどが無料で観覧することができ（一部の企画展は有料）、そのうえ館内の写真撮影は基本的には許されているため、私は時間があれば美術館や博物館に通い、多くの写真を撮影しました。それらの写真は現在、大学や高校の講義に用いることもあり、留学における貴重な財産の一つです。

芸術専攻（書領域） 髙橋佑太

留学期間: 2009 – 2011（博士後期課程2年次）

国立台湾科技大学
The National Taiwan University of Science and Technology
入学案内: http://www.academic.ntust.edu.tw/ezfiles/1/1001/img/304/100459982.pdf
デザイン学部: http://dcollege.ntust.edu.tw/home.php?Lang=en
連絡調整責任者: 山田協太

台湾でもっとも優れたデザイン教育

台湾において最初に設立されたデザイン分野を含む科学技術系大学で、台北にある台湾大学に隣接し、学部学生 5072名、大学院学生 4172名、教員（研究者）368名を数え、台湾成功大学と並んで台湾でもっとも優れたデザイン教育を行っている大学である。また教育省から「トップ12大学」に与えられる500億台湾ドルの奨励金を受けるなど多数の資金を獲得しており、大学院教育は全国「トップ5」にランクされている。また、国際的デザイン賞であるドイツIF賞の世界大学ランキングにおいて2011-2012年連続で世界トップとなり、同じくドイツのレッドドットデザイン賞において、2012年度アジア太平洋の第1位にランクされた。台湾とわが国との文化的な結びつきは深く、美意識においても共有する部分が多い。日本に対する親近感も強いが英語によるコミュニケーションも浸透しており、留学先として多くの経験を積むことが可能である。台湾科技大学は特に構成、デザイン分野および感性認知脳科学において優れた研究者・教育者が在籍している。

中央美術学院
China Central Academy of Fine Arts

中央美術学院
The Central Academy of Fine Arts
URL: http://www.cafa.edu.cn/
住所: No.8 Hua Jia Di Nan St., Chao Yang District, Beijing
規模: 造形学院、設計学院、建築学院など8学院(学部)
学部生3449人、大学院生1272人
連絡調整責任者: 小山慎一

中国芸術の最高峰

中国の首都北京にある中央美術学院は、1950年に中央人民政府教育部によって設立された中国初の国立芸術大学であり、美術分野で国内トップの地位を誇る、中国で最も権威ある芸術大学である。8つの学部と26の専攻を有しており、デザイン分野や芸術学理論分野でも高い評価を得ている。

歴代院長である徐悲鴻は、中国現代美術の創始者と謳われる著名な画家であり、現設計学院副教授の林存珍は2022年冬季オリンピック・パラリンピックエンブレムのデザインを手掛けた。また、建築学院程启明教授は1996年の本学修了生である。そのほか、中国モダンアートの先駆者である陳丹青など、中国を代表する著名な芸術家を多く排出している。

学内に磯崎新設計の美術館をもち、明・清時代の芸術家によって描かれた中国画巻を2,000本以上所蔵している。その他、教員・学生・国内外の芸術家による展示を常時行なっている。また、北京市内では展覧会が年間を通して数多く開催されていることから、芸術を学ぶには恵まれた環境にある。

中央美術学院は芸術大学として設立されたものの、人文学部をもち、歴史・言語・マネジメント等の研究も盛んに行なわれている。総合大学である本学との共通点も多く、今後の活発な学術研究交流が期待できる。

ホーチミン市美術大学
Ho Chi Minh City University of Fine Arts
URL: http://www.hcmufa.edu.vn
住所: 5,Phan Luu Street,Binh Thanh District,Ho Chi Minh City
連絡調整責任者: 中村伸夫

創立100年を迎えたベトナム美術最高教育機関

ホーチミン市美術大学は、ベトナム社会主義共和国でもっとも長い歴史と伝統を有する美術の総合大学である。1913年に前身のジア・デン絵画学校として設立されてから百年以上になり、昨年(2013年)には開学百周年を記念する盛大な式典が行われた。2014年3月には部局間交流協定の締結を記念する事業として、本学で人間総合科学研究科主催の「ホーチミン市美術大学・公開学術講演会」が開催され、交流活動も本格化している。絵画、彫塑、グラフィック、美術史、美術理論、美術教育などの専門領域を有し、学部と大学院修士課程から成り、学生数は学部と大学院あわせて550名にのぼる。ベトナム社会主義共和国を代表する高度な美術の教育研究機関であり、国を代表する多くの専門的人材が輩出している。筑波大学が国際交流の上で重要課題の一つとしている「本学のホーチミン事務所を拠点とする東南アジア諸国の大学・研究機関とのネットワークの構築および国際連携の推進」の一翼を担う大学でもある。

1562

ACCADEMIA DI BELLE ARTI DI FIRENZE

フィレンツェ国立美術学院
Academy of Fine Arts of Florence
URL: http://www.accademia.firenze.it/
住所: Via Ricasoli 66-50122 Florence,Italy
規模: 学部:5コース　大学院:3コース
学部: 1057人
大学院　251人
専任教員101人　非常勤教員27人
連絡調整責任者: 星美加

イタリア最古の美術大学

フィレンツェ国立美術学院は1563年ジョルジョ・ヴァザーリによって創設されたイタリアでもっとも古い美術学校である。現在学部では、絵画、彫刻、シノグラフィア、グラフィカ、デコラティブの5コースがあり、大学院は美術展示計画、舞台美術計画、視覚芸術・現代美術の3コースがある。隣接している付属の美術館にはルネサンス期を代表するミケランジェロの作品「ダビデ」像をはじめ多くの名作が展示されている。また、フランコ・ゼフィレッリ(映画監督)ジョバンニ・ファットーリ(画家・版画家)などイタリアの芸術界を代表する著名な芸術家も多く輩出している。以前から芸術系の教員との研究交流があったが、文化庁と筑波大学が主催する新進芸術家育成交流展(２０１５年)にフィレンツェ国立美術学院の助手と学生が参加したのをきっかけに、交流協定の話が進み、２０１６年に締結された。今後は芸術諸分野の研究・教育協力を行い、年間2名の交換留学を予定している。

贅沢な制作環境でのフィレンツェへの留学

私はイタリアのフィレンツェにあるフィレンツェ国立美術学院の彫刻科に交換留学生として一年通いました。授業科目は塑造、石彫、自由制作、解剖学、美術史など様々で、留学生はこの中から興味のあるものを適宜選択します。私は5科目を選択し、計7点の作品を制作しました。授業内容は筑波大学のものと大きくは変わりませんが、制作の工程や感覚、使用する道具などに日本のものとの違いがみられ、イタリアの有名な彫刻作品が生み出されたその所以の一端が垣間見えるようで興味深かったです。特に鋳造の授業では、各々が制作した蝋素材の彫刻原型をピストイアにある鋳造所に持ち寄り、そちらで働いている職人の方が工程の解説を交えながら、持ち込んだ作品原型をブロンズに鋳造する実演をしてくださいます。これは元々イタリアのブロンズ彫刻について研究している自分にとって非常に有意義な経験でした。

授業以外の時間には教室に入って制作することができないので、夕方以降は自宅や図書館でイタリア語の学習や自身の研究に励みつつ、友達と食事に出掛けたりなどしていました。休みの日は自主学習の他に、美術館や教会等に足を運んで作品を鑑賞していました。特に当学院の学生はフィレンツェ市の美術館が無料で利用できるので、バルジェッロ、ウフィッツィ、アカデミア美術館等に足繁く通い、ミケランジェロやドナテッロ、マリーニらの有名な作家の作品を参考としながら制作に取り組むことができ、研究活動において贅沢な環境だったように思います。また、学院には夏と冬に長期の休暇があるので、その期間には他の都市の美術館を巡ったり、友達の実家に招待されて地元の街を案内していただくなど、短期の旅行では中々味わえない貴重な経験ができました。

留学に興味がある学生にとって費用が懸念材料の一つであるかと思います。私もその一人でしたが、私はいくつかの留学支援を目的とした給付型奨学金のプログラムに応募し、結果として筑波大学基金「開学40＋101周年記念募金」海外留学支援事業に採用していただき、渡航費10万円＋月額10万円を支給していただきました。このように、留学を可能にするための制度はかなり充実しているので、経験のある先輩に話を伺ったり、筑波大学のスチューデント・コモンズに相談するなどして各自情報を収集してみてください。皆さんの留学が実りのある体験になるよう願っています。

彫塑専攻　木村公則

留学期間: 2018.10.-2019.6.（博士後期課程1年次）

様々な芸術活動への挑戦、発見と学び

私は絵画コースの授業を一年間受けました。絵画コースでは、絵画、絵画技法、英語、イタリア美術史などの授業を取りました。英語で行われる授業はほとんどなく、ほぼイタリア語での授業だったので大変でした。しかし、放課後はボランティアのイタリア語学校に通っていたので、だんだんとイタリア語を理解できるようになり、話せるようになっていきました。イタリア語を理解し話せるようになると、友人や先生のアドバイスなどを聞き取れるようになり、自身の制作に還元できるようになっていきました。絵画の授業は主に裸婦を描く授業で、そのほかに自主制作も行ってよいという自由な授業でした。絵画技法の授業では、水彩テンペラ、水彩画を主に制作する授業で、他にボーボリ庭園に赴きスケッチする等、美術館で先生が作品について説明する授業もありました。英語、イタリア美術史の授業は先生が講義するスタイルの授業で、試験はペーパーテスト、口頭のテストがありました。

口頭テストはイタリア語で話さなければならないので、ここでもイタリア語が話せること、コミュニケーションが取れることが必須でした。

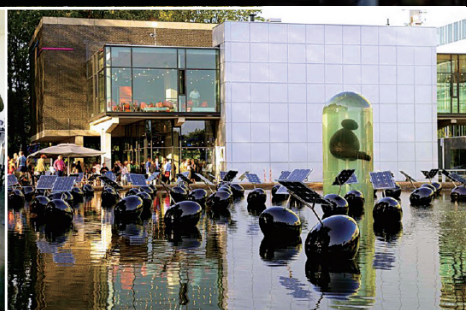
学外での活動は、ミラノ、ローマ、ヴェネチアなどの有名なイタリア都市や主にトスカーナ地方の街をめぐり、美術館や博物館に足を運びました。イタリアでは都市や街ごとに、雰囲気や歴史が異なり、その地ならではの文化、芸術があるので、様々な地方に訪れてみるのもいいと思います。また、その他にミラノ日本領事館で個展を行うなど、モデナ近郊の街のスピランベルトではフェスタ・ディ・ジャッポーネという市が運営するイベントで絵画の展示、能のパフォーマンスを行いました。このように個人の芸術活動としても様々なことに挑戦できたので、良い留学生活を送ることができました。

私はこの留学生活を通して学んだことで特に大切だったなと思うことが2つあります。一つ目は人と人とのつながりの大切さです。何か自分がやりたいと思ったときにそれを、応援してくれる人や、最良の機会を与えてくれる人とつながることで、そのやりたいことが実現できることがあるからです。また、他者に対してもよい機会を与えるような人に己自身がなることで、さらにできることやつながりが広がります。二つ目は自己プロデュース力を養うということです。自己プロデュースとは自分自身がどのような活動をしているか、どのようなことができるかなどを相手（何かを主宰、求めている側）に見せて、売り込んでいくという力です。この力を養うことで、活動の幅を広げられ、さらに異なる文化の中で自分の在り方を探すことができるようになりました。

このようにイタリアでの留学生活では、様々な発見や学びがありました。異文化に触れることで新たな価値観に出会い、思考の幅が広がります。留学を考えているけど、一歩踏み出せない方や、悩んでいる方などは是非短期間でも留学に行ってみることをお勧めします。

美術専攻洋画コース　洞口智香

留学期間: 2017.9-2018.8（学群2年次）



TU/e Technische Universiteit Eindhoven University of Technology

アイントホーフェン工科大学
Eindhoven University of Technology

URL: www.tue.nl
住所: De Zaale 5612 AJ Eindhoven
The Netherlands
Tel: +31 (0)40 247 47 47
規模: 学部 4,983名(うち1年生1,587名)
修士 3,238名(うち1年生452名) 2013年現在
提携開始: 2008年6月
提携部門: 感性情報、感性デザイン、情報デザイン、
プロダクトデザイン
交流実績: 派遣1名 受入4名
連絡調整責任者: 李昇姫

オランダデザイン工学のトップスクール

博士後期課程は、大学から給料が支払われる研究員制度があり、教員採用水準で選考される。

国際化と融合科学(電子、脳、医学、ロボット工学など)による大学評価が著しく高く、現在デザイン工学分野はオランダ国内第1位である。

デザイン工学分野は、2000年より電子技術の導入と共に、世界的な企業との産学連携プロジェクトを中心に、教員、研究者、学生との教育ネットワークに企業デザイナーとの協力体制で行われている。

アイントホーフェン工大は、オランダのみならずEU最大のデザインイベントであるDutch Designers' Weekの開催地でもある。近隣の世界的企業であるPhilips、芸術系大学のDesign Academyとの協力体制でそのイベントをリードする役割も果たしている。

学生への指導が行き渡っていることに定評があり、良い指導体制が期待できる。

人の生き方を尊重する自由で文化的な大学教育

私がオランダのアイントホーフェン工科大学を留学先として選んだのは、この大学が一つ一つの授業において非常に高い質を持っていることに魅力を感じたこと、そしてEUで最も住みやすい国とされるオランダの文化と人々に興味があったからだ。

この大学では学生が好きな授業だけに興味を絞れるようすべてが選択制の授業で、また、半年で5科目しか履修できないようになっている。その5つのうちの一つで、半年で一つ行う「プロジェクト」と呼ばれるものは特に重要だった。担当教員は学生と毎日数時間に渡りコミュニケーションをとりながら、課題の発見、解決、そのプレゼンテーション方法までを共に模索していく。担当教員はただ答えを導き出すだけでなく、学内にいる他の学生や、他分野の教授、クライアントなどを私に紹介してくれ、オランダでは全くの他人であった自分に多くのチャンスを与えてくれた。

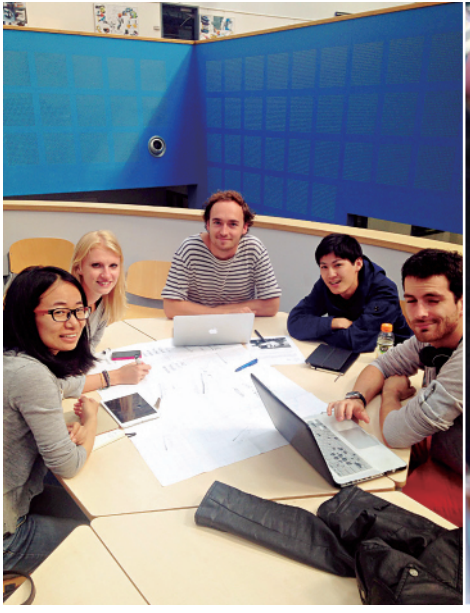
大学だけではなく、オランダという国には他人と違うことを受け入れられる文化があることも大きかったと思う。EUの中でも移民が多いオランダでは、ほとんどのオランダ人が英語を流暢に話し、多くのメディアが英語を使っている。その理由は、オランダのような小さい国は、周りと共存しないと生きていけない、ということをオランダ人自身が自覚しているからしい。また、この国は同性愛者が多いことでも有名だが、それもまた人の生き方を尊重できるオランダ人の高い文化の証である。

私は、人との関係を大切にするオランダの人々がとても好きで、特に私がオランダを離れるときに担当の教授が「私と君は"友達"だ。いつでもオランダに来なさい。」と言ってくれたことが今でも忘れられない。

この国での学びや、オランダの友人、また他国からの留学生との日々は、今の私を形成するのに必要不可欠なものとなった。今後もこの体験を忘れず自分の技術を磨き続けていきたいと思う。

デザイン専攻(情報デザイン領域) 岡田遥

留学期間: 2010 - 2011 (学群3 - 4年次)



TU Delft

Delft University of Technology

デルフト工科大学

Delft University of Technology

URL: www.tudelft.nl

住所: Postbus 5, 2600 AA Delft
The Netherlands

規模: 約19,000人（博士課程 約2,500人、
修士課程約2,000人、留学生約3,000人）

交流実績: 派遣3名 受入11名

連絡調整責任者: 李昇姫

部局間交流協定校

オランダ最古の工科大で学ぶ最先端のデザイン

デルフト工科大学はオランダ、デルフトにある公立大学です。設立は1842年と古く、工科大学としてオランダ最古の歴史を有しています。教育機関としても世界から高い評価を得ておりヨーロッパ屈指の名門校にも数えられ、毎年、高い意識を持った学生がオランダ国内に留まらず世界各国から集まってきます。本校からの留学が可能なIndustrial Design Engineering (IDE)にも多くの留学生が在籍しています。IDEは大きくDesign For Interaction, Strategic Product Design, Integrated Product Design に区分され、それぞれ異なる授業が展開されています。グループワークに重点が置かれ、世界各国の学生と様々な角度から意見を交わし合う良い機会となっています。歴史の古い大学ですが、新しい施設も充実しています。

大学があるデルフトは、首都のアムステルダムからは電車で1時間ほど、ロッテルダムからは電車で15分ほどの場所に位置しています。現在は学生街と言われることも多い街ですが、新旧の教会を中心に可愛らしい建物と運河が広がる街並みは、オランダの美しい原風景とも言えるでしょう。また、画家フェルメールの生誕の地としても知られ、彼が残した絵画「デルフトの眺望」は、その変わらぬ美しさを物語っています。

積極的な発言や行動が成長に繋がる

私がオランダに交換留学を行ったきっかけは、2011年の国際デザイン連合国際会議だった。

その後、交換留学でデルフト工科大学に一年間滞在することになった。この夢のような交換留学が実現できたのは、李先生の支援が大きかったのは言うまででもないだろう。当時、自分の修士論文の研究で、日本人とオランダ人を対象にする実験計画をたてており、その実験は現地でデータを得る必要があった。そして、私は2012年の8月にオランダに旅だった。

デルフト工科大学は、ヨーロッパ最高、最古の工科大学であり、その中でも主に建築学科、航空宇宙学科、デザイン学科が有名だ。オランダとはいえ、修士課程の授業は全て英語で行われ、先生も学生も英語で話さなければならない。そのおかげで、毎日英語で話す環境に恵まれた。私は実験を行うと同時にデザイン学科の授業にも参加することができたが、ほぼ全ての授業がグループで行われ、学生同士で助け合い、役割分担をはっきりして行われた。初めて授業に参加したときは、なかなか意見を言えず、人の話を聞いて理解することに精一杯だった。少しデルフトの環境に馴染んでからは、ディスカッションでも徐々に発言し、自分でも授業の主役になっている感覚が伝わってきた。

また、デザインの現場を大事にすることも授業の大きな特徴だった。例えば、「バスの中で、他人の目に見えない怪我をしている患者が、どう席を他人に譲ってもらうか、あるいは人々がどういう方法でその患者の怪我に気づいて席を譲るか」というインタラクションに関するプロジェクトのため、文献調査はもちろん、インタラクションが行われる現場に行って色々な人にインタビューを行った。バスの運転手、手術を受けた患者、リハビリに携わる保護者などを訪れ、バスで席を譲ってもらいたい時、あるいは譲りたい時にどう行動するかについて詳しく聞くことができた。このような取り組みが、実際の状況に近いインタラクションデザインの提案につながったのだろう。

大学や学生寮で作業を続ける間に、ヨーロッパやアジアなど色々な国の学生たちと話ができたり、デザイン学科以外の学生と交流する日々が、毎日を充実させてくれたのに違いない。このような大切な経験が、一年が過ぎた今でも鮮明に記憶に残っている。オランダで経験したように、これからも人との交流を大切にし、色々な人との意見交換の場に自分から参加したいと思う。このような経験が、 将来自分の成長につながると信じている。

感性認知脳科学専攻　洪昇基

留学期間: 2012―2013（博士前期課程2年次）

Kungl. Konsthögskolan | Royal Institute of Art

スウェーデン王立美術大学
The Royal Institute of Art
Kungl. Konsthögskolan (KKH)

URL: http://www.kkh.se
住所: Flaggmansvägen 1
Skeppsholmen, Stockholm
Sweden
規模: 学生数約240名(学部(3年間)約100名、大学院(2年間)約100名、特別研究生等約40名)教員・スタッフ約60名
提携開始: 2007年
交流実績: 派遣13名 受入14名
連絡調整責任者: 田島直樹

王宮とヨットハーバーを見ながら通学する伝統校

北欧スウェーデン王国の首都・ストックホルムにあるスウェーデン王立美術大学は、1735年に設立された歴史と伝統のあるスウェーデンの芸術における最高学府です。それ故、そこに通う学生達の芸術に対する意識はとても高く、アーティストとしての誇りと自身に満ち溢れています。

この大学の授業では絵画、版画、彫刻、写真、ビデオ、ガラス工芸、PCを用いた表現等、様々な分野を学ぶ事が出来ます。9月の年度当初に履修申請を行い、自らカリキュラムを組みますが、少人数制でじっくり学べる事が特徴です。各学生には共同のアトリエが与えられ、そこでは様々な分野の学生が混在し、思い思いの制作を行っています。これまで本学からは、洋画・版画・ビジュアルデザイン・総合造形の学生が留学しています。

校舎があるシェップスホルメン島に渡る橋の上からは、両端に王宮とヨットハーバーが見渡せ、毎日美しい景色の中を登校する事になります。歴史のある建造物と洗練されたデザインが融合した街並を見ながらの生活は、創作への刺激とヒントを与えてくれるに違いありません。

異文化体験を自分の表現につなげる貴重な機会

学生は1・2・3年生の学部生、4・5年生の院生、エクスチェンジスチューデント、プロジェクトスチューデントで構成されている。全ての学生は十数名ずつグループに振り分けられ、各グループごとに1人の教授が担当する。教授によりグループ活動の頻度や内容は異なるようだったが、私のグループでは約2週間に1回ミーティングを行い、それぞれの作品を発表し批評を行った。加えて、教授が学生のスタジオを訪問するスタジオビジットも定期的に行われ、なぜこの形にしたのか、なぜこの材料を選んだのかなど、自分の作品について説明をする機会が多くあった。日本では作品の見た目の美しさを意識することが多かったが、教授から作品がエレガントすぎるという指摘を受けたことは新しい発見に繋がった。現地の学生の作品もパフォーマンス・ビデオアート・テキストのみの作品など、自分の考えをいかに作品に落とし込むかを重視した作品が多いように感じた。留学前から作品のテーマとしていた他者との関係性や距離感は、日本では自分と周囲の人たちとの間に存在する問題として捉えていたところがあったが、留学を通して異なるバックグラウンドを持つ人たちと出会ったことで、「他者」についてより深く考察する必要が生まれ、自身の制作を見つめ直す貴重な機会となった。

構成専攻（総合造形領域） 諏訪春佳

留学期間: 2016.08.30—2017.06.04（芸術専門学群 3年次）

Universitat de Barcelona

バルセロナ大学
University of Barcelona

URL: http://www.ub.edu/
本部住所: Gran Via de les Corts Calatanes, 585, 08007 Barcelona, Spain
芸術学部: Facultat de Belles Arts: carrer Pau Gargallo 4, Barcelona, Spain
学生数: 63,020人
総合大学: 19学部 64コース、大学院:138修士学位プログラム 71博士学位プログラム
交流実績: 派遣5名 受入6名
連絡調整責任者: 山本早里

部局間交流協定校

バルセロナの総合大学

スペインバルセロナの総合大学で、スペインの中でも最高位の大学です。大学のキャンパスは市内に分散しており、芸術に関するキャンパスはバルセロナ西部で、FCバルセロナの本拠地のすぐ近くです。

交換留学の協定は部局間協定で、Faculty of Fine Arts芸術学部の学部(学群)レベルの間で締結しています。(大学院の交換留学は現在のところ対象外です。)芸術学部には、Drawing 学科、Design and Image学科、Sculpture学科、Painting学科があります。授業はホームページなどで確認してください。

授業は基本的にスペイン語で、留学生には英語で行われます。スペインの中でもカタルーニャ地方に属しているためカタルーニャ語もよく使われています。留学生は意思疎通のために英語は必須ですが、スペイン語もある程度できたほうがよく、かつ、カタルーニャ語も現地に行って学ぶとよいでしょう。本校の留学の前に現地で語学学校に通うことが多いようです。

バルセロナには多くの美術館があり、かつ街中にも多くの作品があります。温暖で過ごしやすい気候です。恵まれた環境を楽しみ、大いに勉学に励んでください。

毎日飽きることがない街、バルセロナ

バルセロナ大学はスペインのバルセロナの中心地にある大学で、空港からも近く比較的都会です。大学の周辺は他の大学も多くバス、地下鉄、トラムなどの交通の便がとても良いです。自然も多く存在していて海もあり、綺麗な地域です。

現地の授業は1授業の生徒の人数があまり多くなく(20人・30人程度)1人1人面倒を見てもらえます。優しい先生が多く、生徒も協力的で穏やかな雰囲気ですが授業がスペイン語なので留学の際はスペイン語を学んでから行くことをお勧めします。他の留学生はスペイン語圏(主に中・南米)からの留学生が多いのでスペイン語を話せる方が多いですがヨーロッパからの留学生など英語を話す方もいますので、英語を勉強して行っても良いと思います。アジア人はほとんどいません。

バルセロナは晴れの日が多く食べ物も美味しい、街の交通が発達しているため住みやすい地域です。美術館や博物館も多いです。大学の周りは公共機関や公園が多いですが少し歩くと繁華街やサグラダファミリアなど観光地があり毎日飽きることのない街です。バルセロナの人は基本的に観光客に慣れているため優しいですがスリや軽犯罪も多いので注意が必要です。

生活自体にはスーパーや生活必需品を売っている店も多く存在し、24時間交通の便があるので困りません。ヨーロッパの都市の中では比較的生活費は安く、月8万円ほどで暮らせますが、基本時にピソ、シェアハウスが多いです。バルセロナのあるカタルーニャ地方は独立運動が盛んなのでそう行った運動や文化に興味がある方にもお勧めですがデモの際は危険なこともあるので気をつけてください。

英語以外の言語を学んでみたい、ヨーロッパの各地域にアクセスの良い場所が良い、都心だけど緑のあるところに住みたい、ご飯が美味しい地域がいいという方にはとてもお勧めです。スペイン語を学ぶことでヨーロッパだけでなく南米の友人も多くできたので嬉しかったです。都心ですが小さい眺めのいい山や、綺麗な海がありサイクリングなどもしやすいです。

構成専攻　須賀さりあ

留学期間: 2019.2-2019.6（学群3年次）

ヘルシンキ芸術大学　美術アカデミー
Academy of Fine Arts,
University of The Arts Helsinki

URL: http://www.uniarts.fi/en/kuva
住所: Elimäenkatu 25 A,
00510 Helsinki, Finland
規模: 学部・博士前期学生(247名)
博士後期学生(27名)
留学生等(37名)
教員(専任):(22名)、職員(42名)
提携開始: 2015年
交流実績: 派遣1名 受入3名
連絡調整責任者: 田島直樹

自然と調和したフィンランド芸術の最高機関

北欧フィンランド共和国の首都・ヘルシンキにあるヘルシンキ芸術大学は、Academy of Fine Arts（美術）、Sibelius Academy（音楽）、Theatre Academy（演劇）が2013年に新たに統合されてできた総合芸術大学です。中でも美術アカデミーは、1848年にデッサン学校として設立され、1939年からのフィンランド美術アカデミー基金による運営を経て、1985年には国有化され、フィンランド芸術の最高機関となりました。1993年に公立大学となり、2013年に他のアカデミーとの統合を経て現在に至ります。専門分野はPainting, Printmaking, Sculpture, Time and Space Arts (Moving Image, Site and Situation Specific Art, Photography)に分かれています。各分野のカリキュラムや設備は充実しており、学生がじっくりと学習に取り組める環境が築かれています。自然と都市が美しく融合したヘルシンキの街並は、皆さんの感性を磨いてくれるはずです。

本質を見極める姿勢と他己に寄り添う温かさ

ヘルシンキ芸術大学のPrintmakingコースに学群4年次の夏から一年間留学しました。

アカデミーは非常に小さな学校で、例年25人の正規学生が入学します。留学生は学期ごとに15名程度おり、外国人正規学生も含め学内における外国人は比較的多いため、英語による授業も多数あります。

学生は専攻以外の学科の開設授業も自由に履修することができます。Printmakingコースの学生も、その多くが映像、パブリックアート、3Dモデリングなど、異分野の授業を並行して履修し、多様なメディアを用いて制作をしていこうという意欲に溢れています。

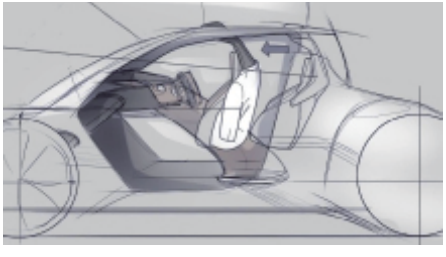
また、国内外からのゲスト講師が頻繁に呼ばれたり、海外に学外演習に行ったりするなど、国際的な視野を広げることもできました。

生徒ひとりひとりに対する教員からの指導が非常に細やかであり、学生がフィードバックを得る機会に恵まれていたため、留学中もモチベーションを維持して活動を続けることができました。私自身は、留学生のグループ展、学内ギャラリーでの個展、ビエンナーレ開催中のヴェネチアでの企画展などに参加し、広くたくさんの方に作品を見てもらうことが出来たことも大きな刺激となりました。

「森を歩く」という授業があるほど、フィンランドの自然は豊かです。一年のうちのほとんどが冬と言っても過言ではありませんが、自然の営みを中心とした現地の人々の暮らしぶりは、「豊かさ」とは何かを再定義させてくれるものでした。

構成専攻（ビジュアルデザイン領域） 山ノ井梨紗子

留学期間: 2016.08—2017.07（学群3年次）



世界トップ60のデザインスクール

ストラートは，1993年にパリ郊外に設立されたデザイン教育を専門とする新設大学で，フランス初の私立大学です。フランスにおける Grande Ecole と同様の教育課程として認められていて，ビジネスウィークがまとめた世界のトップ60のデザインスクールや、ミラノの有名なデザインスクールであるDOMUSアカデミーが選んだヨーロッパのトップ50のデザイン大学に選ばれています。また，2015年に正式に French State University（フランス共和国の大学）として認められた高等教育機関となりました。フランスの大学では極めて珍しく英語での修士課程レベルのプログラムとして Transportation と Smart Cities があり，これらのコースには英語での受験が可能です．フランス語のカリキュラムはモデリングや革新的デザインなどもあります．

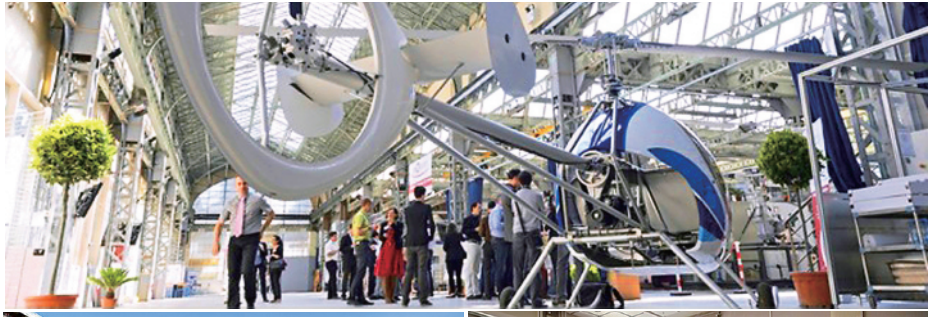
校舎はパリ郊外の国立セーブル焼美術館の近くの閑静な区域にあり、モンパルナスまで20分ほどです。

https://www.strate.education

https://www.strate.design

strate
SCHOOL OF DESIGN

ストラートデザイン大学
Strate Shool of Design
URL： https://www.strate.education/
住所： 27, avenue de la Division Leclerc 92310 Sèvres, France
規模： 学部学生・大学院学生約620人　教員（研究者）約150(3)人
提携開始： 2017年
交流実績： 平成28年度海外留学支援事業（はばたけ！筑大生）「海外武者修行支援プログラム」の支援を受けて，2016年10月21日〜28日まで，先方の学生と共同デザインワークショップを行った。
連絡調整責任者：小山 慎一



国立工業工芸大学(パリ工科大学)
École Nationale Supérieure d'Arts et Métiers (ParisTech)
Laboratoire Conception de Produits et Innovation
住所: 151 Boulevard de l'Hôpital
75013 Paris
URL: http://www.ensam.eu/en/
連絡調整責任者: 山中敏正

感性工学とデザイン研究を先導するトップ校

国立工業工芸大学(パリ工科大学)は,1780年にDuke of La Rochefoucauld-Liancourtによって設置された歴史ある工科大学で、2007年にパリに拠点を置く12の理工系大学によってパリ工科大学グループが設立されたときの設立組織の一つである。現在では8つの教育研究組織と3つの研究所を擁し、機械工学、エネルギー工学、工業工学(デザイン、企画、管理工学)、においてフランスの工業発展に大きく寄与している教育機関である。フランスのトップ5大学(Grandes Écoles)の一つに数えられるParisTechの中で、工業部門のトップ大学である。特に、LCPI(Laboratoire Conception de Produits et Innovation)は感性工学とデザインの研究においては先導的立場にあり、本学との間で感性工学ならびにデザイン研究において交流を深めることができる。特に、デザイン、デザインマネージメント、デザイン企画、感性工学、感性科学分野での交流を行っている。

韓国のデザイン教育を先導するグローバル大学

KAISTは100以上の研究機関が集まる大田市(テジョン市)に位置する国立大学です。KAISTは韓国における科学技術研究の中心的役割を果たしながら、様々な学部、カリキュラムを学生に提供し、QS World University Rankingsで51位(アジア2位)を誇っています。

ID KAIST(産業デザイン学科)は韓国理工系教育機関として初めてのデザイン学科であり、韓国を代表するデザイナーを数多く輩出してきました。またDonald A. Normanなどの著名人を招聘教授として迎えています。

韓国のデザイン教育を先導するために常に新しい領域を開拓しています。人間中心インタラクションデザイン、社会貢献デザイン、デザイン経営、色彩と感性デザイン、メディアアートなど幅広い分野の研究が行われています。ID KAISTの学生はReddot awardやIDEAなどの世界的なデザイン賞を受賞しており、2009年にはBusinessWeek誌のbest 30 design schoolsに選ばれています。

韓国科学技術院
Korea Advanced Institute of Science and Technology

URL: http://www.kaist.ac.kr

住所: KAIST 291 Daehak-ro, Yuseong-gu, Daejeon 305-338

学生数: 約11,175 (学部 約4,762名、大学院(修士)約2783名、(修士・博士統合過程)約1203名、(博士)約2427名)、産業デザイン学科(学部)約150名、(修士)約30名、(博士)約30名

交流実績: 派遣2名

連絡調整責任者: 李昇姫

総合大学へ発展した韓国随一のデザインスクール

弘益大学校はソウル市麻浦区の地に1946年に開学し、美術学部を中心に順次学部が整備され拡大してきた。1971年に首都工科大学と合併し総合大学として再編された。以降、経済社会の発展を支える多様な人材を育成してきた。1989年には忠清南道・鳥致院に第二キャンパスを開設し、科学技術と芸術を融合するなど、新しい社会要請に応える改革を重ね、韓国の主要な私立総合大学の一つに数えられている。都市工学科には、2008年国際交流賞を受賞した朴柄柱名誉教授など、建築学科には李ヨンス教授など、工業デザイン学科には鄭洲鉉教授や卞相泰教授など、視覚伝達デザイン学科には安尚秀教授や張同錬教授など、優れた業績を修めた教授陣が揃っている。

弘益大学
Hongik University
URL: http://www.hongik.ac.kr/
住所: Seoul Campus: 94 Wausan-ro, Mapo-gu, Seoul, 121-791, Korea
Sgjong Campus: 2639 Sejong-ro, Jochiwon-eup, Sejong, 339-701
規模: 1) 学部等の数: 学部(14) 研究科(10) 付属機関(27) 付設研究所(34)
2) 学生等の数: 学部学生(17,046)大学院学生(3,137) 教員(研究者) (825)
交流実績: 派遣3名 受入5名
連絡調整責任者: 花里俊廣

タスマニア大学
University of Tasmania
URL: http://www.utas.edu.au
住所: Churchill Avenue, Sandy Bay,
Hobart, Tasmania 7005, Australia
規模: 学群生 25,000人、大学院生5,000人
教員 2,700人
連絡調整責任者: 吉田正人

オーストラリアトップ10リサーチユニバーシティ

タスマニア大学は、1890年に設立された州立大学で、オーストラリア国内でトップ10の研究機関にランクされている。タスマニア島のホバート、ローンセストン、バーニーのほか、シドニーにもキャンパスを有している。海洋と南極研究所、海事学校が有名だが、アート、ビジネス、法学、医学、科学技術、教育、健康などの学部を有している。筑波大学とは、自然保護寄附講座における協力をきっかけに、2015年に大学間交流協定を締結し、筑波大学への短期訪問を受け入れるとともに、自然保護寄附講座の実習でタスマニア原生遺産地域を訪問するなど、世界遺産、自然保護に関する研究教育協力を行っている。

DEAKIN UNIVERSITY AUSTRALIA

ディーキン大学

住所: 221 Burwood Highway, Burwood
Victoria 3125, Australia

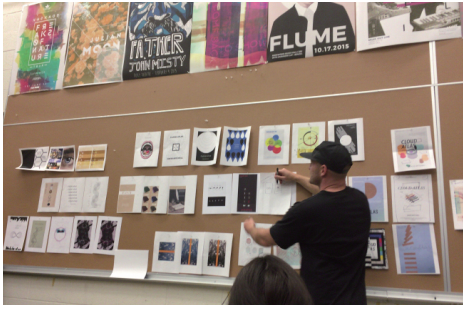
URL: http://www.deakin.edu.au/

規模: 学群生 34,500人、大学院生 8,100人
教員 2,600人

連絡調整責任者: 吉田正人

文化遺産・博物館学の専門コースを有する大学

ディーキン大学は、1974年に設立された州立大学で、キャンパスはオーストラリアのビクトリア州メルボルン郊外にある。芸術関連分野では、芸術教育学部、環境建築工学部などがあり、とくに文化遺産・博物館学専攻は、文化遺産のサイトマネージメントから博物館における保存まで幅広いコースを提供している。筑波大学とは自然保護寄附講座における協力をきっかけに、2015年に大学間協定を締結し、世界遺産および海洋科学における研究協力を行っている。



ユタ州立大学
Utah State University

URL: https://www.usu.edu/

住所: Old Main Hill Logan, UT 84322 USA

学生数: 23,000

提携開始: 2016年

交流実績: 派遣3名 受入4名

連絡調整責任者: 原忠信

農業大学から発展したリサーチユニバーシティ

ユタ州立大学は、1888年に農業大学として設置され、1957年に総合大学のユタ州立大学として創立されました。自然公園に囲まれた160ヘクタールの美しいキャンパスの環境は抜群です。メインキャンパスのあるローガン市はアメリカで最も治安の良い自治体のひとつです。

Caine College of the Artsにはアート・デザイン学部、音楽学部、劇場芸術学部があり、アート・デザイン学部は、芸術教育、美術史、陶芸、絵画、グラフィックデザイン、インテリアデザイン、写真、版画、彫刻の領域で構成されています。地の利を活かしたアウトドアプロダクトデザイン学科、ランドスケープアーキテクチャ学科が農学部に存在していることもユニークです。

現場で活躍するゲスト・レクチャラーやゲスト・クリティークも頻繁にキャンパスを訪れ、オープンで活気のある授業が展開されています。キャンパスからアクセスできるハイキングトレイルも多く、たくさんの学生が周辺の自然からインスピレーションを得ながら創作に勤しんでいます。

「あたりまえ」を見つめ直し広がる視界

Utah State University(以下、USU)は、アメリカの中でも特に治安が良いとされるユタ州にある州立大学です。USUの環境は筑波大学と似ており、総合大学であり、大自然の中に大学があります。私はここで、約9ヶ月間グラフィックデザインと英語を勉強しました。

もし、海外で芸術を学びたいけれど語学力が心配、という方でも、USUなら大丈夫です。USUでは、留学生を対象とした英語プログラムがあり、授業として単位を取ることができます。私は、前期をこの英語プログラムをメインに取り、苦手な英語を集中的に勉強しました。後期は、自身の専攻のグラフィックデザインの授業を中心に履修しました。また、総合大学なので、希望すれば芸術以外の授業も取ることができます。自分のレベル・興味に合わせて授業を組むことができるところがUSUの特徴だと思います。

また、授業の雰囲気が日本とは異なりとても刺激を受けました。USUの芸術の授業では、概論であろうと演習であろうと、常に学生同士でディスカッションを行います。日本の授業では、先生が話し、それを学生が黙って聞いて勉強する、というのが一般的です。しかし、アメリカの授業では、先生が話している最中でも手を上げて積極的に質問をしたり、講評会の際は先生だけでなくクラスメートも互いに意見をぶつけ合うという授業の形が印象的でした。思ったことを直接相手に伝え、発言をすることで考えを深めていく授業の方法はとても新鮮であり、積極的に取り組むことの大切さを知りました。

また、授業以外に、住む環境もとても素晴らしかったです。冒頭でも述べた通り、ユタ州は治安が良く、大学内と大学周辺では危険な雰囲気などは感じられませんでした。また、ユタ州には5つもの国立公園があり、キャンプやハイキングをしながら壮大な自然を体感することができます。

日本で「あたりまえ」のことは海外では「あたりまえ」では無く、海外で暮らすことは自身の思考の幅を広げることができます。住み慣れた環境を離れ、言語も文化も異なる環境へ移ることは自分を客観的に見つめ直すとてもいい機会でした。大学生の時に、この貴重な経験をすることができて本当に良かったと思います。

構成専攻(ビジュアルデザイン領域) 加来未咲

留学期間: 2016.08—2017.06 (学群3年次)

Brandenburgische
Technische Universität
Cottbus - Senftenberg

ブランデンブルク工科大学
コットブス・ゼンフテンベルク校
Brandenburg University of Technology
Cottbus-Senftenberg

住所: Konrad-Wachsmann-Allee 1
03046 Cottbus, Germany

URL: http://www.b-tu.de/en/

交流開始: 2007年

交流実績: 派遣12名 受入6名

連絡調整責任者: 上北恭史

世界初の世界遺産専攻を擁する工科大学

ドイツブランデンブルク州にある2番目に大きな大学で、旧東ドイツ地区の経済、産業発展を担うブランデンブルク州唯一の工科大学である。環境、エネルギー、材料、情報技術を中心とした専門に特化しているが、世界遺産専攻など学部組織を超えたユニークな大学院を複数立ち上げ、EUにおける先進的教育モデル校として位置づけられている。

ブランデンブルク工科大学コットブス・ゼンフテンベルク校建築・土木・都市計画学部大学院修士課程世界遺産専攻は、1991年に設立された世界で最初の世界遺産の保護に関わる専門大学院であり、本学の修士課程世界遺産専攻の設立のモデルになった。同大学に設置された、英語で授業を行う学際プログラムのうちのひとつである。

本学世界遺産専攻と世界文化遺産学専攻は、ブランデンブルク工科大学建築・土木・都市計画学部と交流協定を2007年に締結し、大学院生と教員の交流を行っている。

コットブス体験記

私はBTUのWorld Heritage Studies Programに約1年間留学しました。その専攻には、世界各国から様々な専門分野の学生が集まっていて、年齢も幅広く、授業を通して多くの学生と交流しました。どの授業でも必ずグループワークがあり、様々な学生と意見交換を行う中で、皆国籍も異なるので色々な考え方を知ることができ、とても多くの刺激を受けました。また、欧州と日本で遺産の形態が異なることから、保護の方法も異なり、授業の中でその話を聞くことができ、とても面白かったです。また、現場で活躍している方々が外部講師として話をしてくださることもあり、どの話も興味深いものばかりでした。

留学中にはCottbus Openというイベントで、各国の学生が自国の料理を提供し、食文化を紹介する機会があったので、私も参加し、日本食を広める活動をしました。試作段階では様々な国籍の友人を呼んで、意見交換もしました。友人を含め多くの人に日本食を知ってもらう良い機会になりました。

そして留学生活の終盤には、ポーランドのクラクフで行われた世界遺産委員会に参加し、そこでBTUの世界遺産専攻の学生と筑波大学の世界遺産専攻の学生の交流会が行われました。学生の派遣だけでなく専攻間での交流ができたことはとても嬉しく思いました。

ドイツで1年間留学できたことはとても良い経験になりました。留学を許可して下さった先生方と快く送り出してくれた友人、両親に感謝しています。

世界遺産専攻 長谷川千紘

留学期間: 2016.10−2017.09（博士前期課程2年次）

ノーベル賞・プリツカー賞受賞者が多数輩出

ミラノ工科大学は、イタリア北部ミラノに本部を置く国立大学である。1863年に創設され、150周年の歴史をもつ名門大学である。イタリアや世界的な有名な芸術家、建築家、デザイナーを輩出しており、現在も世界各国から留学生が集まるデザイン工学分野の世界トップクラスの教育機関である。世界大学ランキングは48位であり、学部には約38,000名、大学院には1,900名ほどの学生が在学しており、研究者(PhD)と教員は約1,400名が在職している。Enrico Forlanini（発明家、航空工学）、Giovanni Battista Pirelli（工学、タイヤメーカPirelliの創業者）、Giulio Natta（科学者、1963年ポリプロピレンの合成でノーベル賞受賞）、Renzo Piano（建築家、プリツカー賞受賞）、Aldo Rossi（建築家、プリツカー賞受賞）などの卒業生がいる。筑波大学とは2014年度から短期留学生を派遣しており、芸術分野のみならず工学分野などの学生も募集しており、大学間交流の対象校である。

ミラノ工科大学
Politecnico di Milano
URL: http://www.hongik.ac.kr/
住所: Piazza Leonardo Da Vinci, 32, 20133 Milano
Tel: +39 02 2399 2008
交流実績: 派遣3名 受入1名
連絡調整責任者: 李昇姫

留学したからこそ感じられたもの

1年生の春休み、建築を見に初めてヨーロッパに旅行に行きました。そこでたくさんの優れた建築と出会い、その頃から、ヨーロッパで建築学生をしてみたい、建築教育を見てみたい、という気持ちが生まれました。その気持ちを現実にするため、筑波大学の交換留学制度で、3年生の夏から半年間、イタリアのミラノ工科大学に留学しました。

ミラノ工科大では、建築史の授業と設計の授業を履修しました。筑波大の授業と比べて授業時間が長く、一つの授業が週に2回で3-4コマ程度の時間でした。建築史の授業は、古代から近代までのヨーロッパ建築史を習いました。面白かったのは、講義の他に、現地見学として、街中の教会を見ながら、建築様式などを学べたことです。街中に西洋建築史のエッセンスが詰まった事例がたくさんあることが新鮮でした。設計の授業では、講義とエスキースが交互にあり、事例の紹介を通して設計の思考を講義で学びながら、エスキースで設計を詰めていくという、理論と実践の2つの面から設計課題に向き合うことができました。講義の事例には、日本の建築家の作品も出されたこともあり、日本の建築が一目置かれていることも知りました。また、建築の事例だけでなくアート作品・都市計画・ランドスケープなど、幅広い事例が出され、建築家の神経や興味は幅広くあるべきだという考えが伝わってきました。

また、授業がない日は、スキを見つけてはヨーロッパの国々を旅行して、建築をはじめとして、いろいろな風景や文化、人々と出会うことができました。

一方で、建築と関係ないところで、イタリアそのものを好きになりました。それは、出会ったイタリア人の性格や、文化芸術を尊重する社会が、尊敬するに値するものであったからです。留学して現地で暮らすことで、旅行するだけではわからなかったイタリアの顔を見ることができました。

このように、留学して学んだこと、感じたことの収穫は多く、留学して本当に良かったなと思っています。もちろん、留学中の生活はいいことだけではありませんでしたが、それ以上のものが得られたと思っています。

皆さんも、機会があれば是非留学を考えてみてください。奨学金や現地の情報は、筑波大のいろいろなつながりを活用すれば、心配ないと思います。最後に、体験レポートを読んでいただきありがとうございました。

デザイン専攻 染谷美也子

留学期間: 2018.8-2019.3（学群3年次）

筑波大学 芸術 留学ハンドブック
発行・問合せ　筑波大学 芸術系 国際戦略委員会
住所　〒305-8574 茨城県つくば市天王台1-1-1
発行日　2020年3月31日